資　料　4

小笠原諸島振興開発審議会における議論の論点整理

(1) 自立的発展に向けた取り組み

○自立に向けた施策を進める中で、小笠原にしかできないこと、小笠原だからできることを視点として、小笠原村の特性を生かした自立振興策を構築していきたい。

↓

小笠原の「自立的発展」を図るため、地域の自助努力とともに、振興施策による支援をもってその実現を目指す。

(2) 小笠原の特殊事情による不利性及び課題の克服

○地理的に離れているということで、遠隔性はかなり特別であり、だからこそ経済水域や自然が多く、非常に特別な存在である。かつ国境に位置する。大戦中はいろいろなことを島民に強制をした。そういうことを考えると、それに対する配慮は必要ではないか。一般に条件不利地域というカテゴリーで言って良いものか。
○小笠原に行くのは往復６日掛かる。往復６日掛かるところは、世界中にまずないと言ってもいいような状況であり、一番遠いところになってしまっている。
○国内で沖縄本島を含む本土間の交通アクセスが毎日確保されていないのは小笠原だけではないか。
○法律の目的に島民の定住と生活の安定と言うことがあるが、例えば物価が６割高だというのに、この法律に基づく施策がほとんどない。
○法目的の一つに帰島促進があるが、その成果は十分ではない。小笠原が沖縄・奄美と異なるのは戦後の２５年間に及ぶ帰島できなかった期間の存在。旧島民も高齢化が進み、新たな帰島がほどんとない中で、あらためて旧島民の帰島促進を考える必要がある。
○島外の人のためという視点を置くにしても、やはり小笠原で定住できるという条件があり、定住している人が相当数いるからこそ島外の人も楽しめる。
○これからは医療とか、福祉とか、あるいは教育というソフト面にかなり傾斜した施策展開が必要になってくる。
○小笠原には人が住んでいることを忘れないで欲しい。手付かずの自然を残すところと、人が住んでいるところと、メリハリが重要である。
○離島の場合は情報通信手段を整備すれば、時間的・地理的な距離感というかハンデキャップを克服できるのではないか。
○高齢になっても、いずれは故郷に戻りたいという旧島民がいる限り、旧島民対策は欠かすことはできない課題と認識している。

↓

経済・生活面における豊かな地域社会を実現するためには、小笠原諸島における地理的、自然的、歴史的条件等特殊事情による「不利性及び課題を克服」するとともに、島民が安心して暮らせる生活環境の整備を図る必要がある。

(3) 国家的・地球的役割の再評価と地域の優位性の発揮

○太平洋上で漁船に事故があったような場合に、小笠原が一体どのような役割を果たすことができるのかということは、一つの大きな問題ではないか。だからこそ、我が国にとっての小笠原と言う観点があるのではないか。
○小笠原には多くの固有種があって世界的に貴重であるならば、世界遺産への登録も議論したらどうか。
○小笠原が持つ領海の意味、海洋資源、海洋の可能性など計画に組み入れることができないだろうか。

↓

本土から遠く離れた太平洋上の有人島として我が国の中で独特の地位を占める地域であることから、この地域固有の自然環境等の有する「国家的・地球的役割」を生かし、特殊事情による優位性を発揮し、太平洋あるいは地球規模での交流促進を図る。

(4) 自立的経済社会構造の構築

○観光を含めた産業振興など、島民の生業づくりについてはこれからもバックアップが必要であろう。
○地産地消という発想は大事。観光・漁業・農業という連携がどうしても必要である。
○インフラは生かせないと意味がないので、インフラを生かすという意味も含めて、ソフトを軸とする計画を考えたらどうか。
○単純な水産業ではなかなか成り立たないとすると、「観光漁業」という方向も少し色濃く出すとか、単なる一般の農業政策では本土のマーケットを相手に商売がしづらいというあたりを、どう色合いをつけていくのか。
○観光振興というのは地域づくりの総仕上げのような感じがする。観光振興を目標にすると言うことは、まず誇るべき生活、文化がそこになければならない。

↓

地域の自立を経済的に支えるため、整備された基盤を生かし、観光産業等の総合的な内発的産業を中心とした「自立的経済社会構造」に転換する。

(5) 地域の自主的・主体的な島づくりの促進

○基盤整備が進み、相応の成果は上がったが、残された課題の解決と整備された基盤を最大限に生かしていくことが重要。そのためには、まず島民が最大限の努力をすることが肝要である。
○パブリックコメントという制度があるが、村民の気持ちやアイディア、観光客のアイディアを聞いてみてはどうか。小笠原の人たちだけが考えるのではなく、日本中の人に考えてもらう工夫もあるのではないか。
○観光は、観光客のためだけではなく、住民の方々が誇りを持ってそこに住み続けていくための一助でもある。住民の方たちがまちづくり、島づくりに参画していく中での観光というようなことを考えたらどうか。
○ソフトウェア中心の開発を考える場合は、それができる人材が必要。人材の確保又は人材の育成を考える必要がある。

⇩

　地域住民の意思を地域振興に反映させるため、地域住民の参画の下、地元発意による地域の個性と地元の創意を生かした「自主的・主体的」な島づくりの実現を図るとともに、その担い手となる人材を育成する。

(6) 総合的・戦略的な施策の展開

○小笠原に住んでいる方がハッピーになるためにはどうすればいいのか。「事」を考えてから「物」を考えていくという過程で、ハード・ソフトのあり方を検討すべき。
○事業は総花的で満遍なくやるよりも、ポイントを絞りカラーをつけて将来見通しを明らかにして、カラフルなものをつくって欲しい。
○公共事業は継続的にやらなければならないということはわかっているが、重点を置く必要がある。来年はこうする、２～３年のうちにこういうものを整備するなど。次々と目標を置いてやっていかないといけない。

⇩

　小笠原の将来を見据えた合理的・効率的な振興を図るため、振興事業はもとより、地元の自主的な取り組みも含め、ハードとソフトを一体的に活用して「総合的・戦略的」に施策を展開する。

(7) 小笠原の特性を生かした産業振興施策の展開

○小笠原諸島は日本の大変な財産であり、エコツーリズムの世界的な適地。非常に質の高い観光事業が可能な力を持っている。
○観光利用と環境保全という、従来ならば対立すると言われている２つのものをいかにうまく調整しながら進めるかというコンセプトは興味深い。
○農業など、南から北までどこの地域でも競争しており、小笠原の地理的な条件を生かした小笠原でしかできないような特殊なものでないと、外には売り込めないのではないか。

⇩

小笠原の隔絶性に起因する固有の文化や稀少な自然環境を優位性として活用し、これらとの共生を図るなど、小笠原独特の施策を創出し、「小笠原の特性」を新たな産業振興施策を創造する。

今　後　の　展　開

○　小笠原の「自立的発展」を図るため、地域の自助努力とともに、振興施策による支援をもってその実現を目指す。

○　経済・生活面における豊かな地域社会を実現するためには、小笠原諸島における地理的、自然的、歴史的条件等特殊事情による「不利性及び課題を克服」するとともに、島民が安心して暮らせる生活環境の整備を図る必要がある。

○　本土から遠く離れた太平洋上の有人島として我が国の中で独特の地位を占める地域であることから、この地域固有の自然環境等の有する「国家的・地球的役割」を生かし、特殊事情による優位性を発揮し、太平洋あるいは地球規模での交流促進を図る。

○　地域の自立を経済的に支えるため、整備された基盤を生かし、観光産業等の総合的な内発的産業を中心とした「自立的経済社会構造」に転換する。

○　地域住民の意思を地域振興に反映させるため、地域住民の参画の下、地元発意による地域の個性と地元の創意を生かした「自主的・主体的」な島づくりの実現を図るとともに、その担い手となる人材を育成する。

○　小笠原の将来を見据えた合理的・効率的な振興を図るため、振興事業はもとより、地元の自主的な取り組みも含め、ハードとソフトを一体的に活用して「総合的・戦略的」に施策を展開する。

○　小笠原の隔絶性に起因する固有の文化や稀少な自然環境を優位性として活用し、これらとの共生を図るなど、小笠原独特の施策を創出し、「小笠原の特性」を新たな産業振興施策を創造する。

○　このためには、法に基づく特別措置による支援が必要である。

⇩

小笠原諸島が「自立的に発展」できるように、地域の自主的な取り組みと併せて、経済・社会的基盤の整備とともに、小笠原諸島の特性を生かした観光等による産業の振興を総合的に進め、島民の生活の安定及び福祉の向上、並びに地球規模での交流促進を図る必要がある。